

# シリーズ「災害への想定」完結

最終回は「本当の自助」について考えます。

自助とは、簡単に言うと「他人の力にたよらず、自分の力だけで事を成し遂げること」となります。確かに災害発生の瞬間における自助だけを考えれば、「他人を当てにせず自分の命を守る」となるでしょう。しかし、防災活動の観点から防災（災害への構え）を考えれば、災害が起こった後の活動だけを考えるのではなく、災害が発生するまでの活動も非常に重要と言えます。災害が起こった後の活動を考えると「災害発生の瞬間」は確かに自分の命を守るために自分自身が考え行動しなければ自分の命は守れません。しかし、災害が発生するまでの、災害に対応する為のスキルアップ（命を守る適切な方法を取得すること）を考えてみると、自分ひとりでは限界があることが判ります。

そのひとつには「**想定能力のアップ**」です。災害を想定する上でどのような災害が襲い、それによりどのような被害を受けるか等は、より正確な情報の入手が必要となり、自分だけで考えるのは無理な話でやはり専門家が考え、メディアが情報を発信し、行政が大きな構えを構築する。それらの情報を自分で入手し、学び、答えを出す。この答えこそが「**自分の命を守る適切な方法**」となっていく。他の人が生み出したもの（他人の力を借りる）を自分が適切に利用する。これも「**自助**」なのです。

ところが過去の大規模災害をみると、日本人の防災が「**災害対策基本法**」をもとに「**行政をあてにした防災**」が多いことに気付かされます。「災害対策基本法」の中身を解釈すれば、備えは全てを行政が行わなければならないような内容で書かれています。裏返せば「**絶対に無理なことをやれ!**」となっているのです。

例えば話ですが、年間5千人とも1万人とも言われる交通事故死。この交通事故死をゼロにするために、行政はできることを全てやろうとします。横断歩道、信号機、歩道橋、各種看板を設置する、取り締まりを強化する等、これでもかと言うくらいに安全対策を講じます。皆さん考えてみてください。それでも交通事故死は無くならない。何故？ 答えは、信号無視をする車や人、更には飛び出しや飲酒運転等「**ルールを守らない**」ために引き起こされることが多い。つまり、行政にできることには限界があることが判ります。

自然災害に於いても同じことが言えます。行政からハザードマップが配られても見ようとしません。

災害時には「避難勧告・避難指示」がでて逃げない等「**あなたの命が危険にさらされている**」という緊急情報がその人に届いたとしても聞きもしない。命を守るために大切なことがあっても拒否拒絶する。だから相変わらず死者は減りません。

じゃあ、どうすれば死者数を減らすことができるのかと考えれば、答えはひとつ、我々一般市民自身もやらなければならないことが多くある。それが「**本当の自助**」です。言い換えれば「**助かろうとする気持ちが無ければ助からない**」ということです。

多くの行政は「安全安心のまちづくり」を掲げますが、これはあくまでも到達不可能な目標ライン設定であって、一般市民は「安全で安心な街ができる」と勘違いしてはいけません。阪神淡路大震災以降によく耳にした言葉がある「税金を払っているのだから行政がやれ!」。しかし、売り言葉に買い言葉で行政側は「行政に限界がある。安全安心は自助、共助です」というのが現状です。確かに「自助、共助」は必要。でも、何故必要なのかを一般市民に理解をもたせず、行政には限界があるからと、開き直った結果が「**誤った自助啓発**」となっています。

「自助」には二種類あると言われています。まずは「**仕方なく自助**」受け身の自助です。本当なら行政がやるべきなのに、限界があるから仕方なく自助努力させられる。もう一つは「**自発的自助**」です。家族を守りたい、自分の大切な人を守りたい、その為に自分に何ができるかを考え行動する「自助」。このふたつは全く違う自助となります。このふたつをそれぞれに地域で啓発し自助の精神を共有すると、全く違う備えの地域ができあがるのです。後者は、継続して防災活動を行い、それが生活の一部となり文化として地域に根付くこととなります。しかし、前者の場合は、いつの間にか災害を忘れ、「災害が忘れたころにやってくる」こととなるのです。要援護者対策も全く同じことが言えます。「助けに行きます」というお客様扱いの対策は要援護者をダメにし、あげくには災害時に命を落とさせることになるのです。その人が自ら考え、生み出し、備える「**本当の自助**」をみんなでやりましょう!

グリーンシティ防災会では、改めて「**自助・共助**」のあり方を次年度の課題として学習します。来年も、自分の大切な人を守るために何ができるのかを考えていきます。今年も多くの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。来年もご協力よろしくお願いします。



自販機の売り上げでAEDを2台追加設置することができました。